

## コンサルティング・プロジェクト成果報告書

本来、保護施設アミティエのみ訪問予定であったが、動物臨床医学研究所の付属病院である、山根動物病院へも案内して頂いた。まずは山根動物病院の見学の報告から行う。

### ・山根動物病院について

倉吉動物医療センター・山根動物病院 鳥取県倉吉市八谷 209-1

手術室・・・2室

診察室・・・6室

検査室・・・1室

また、血液検査装置、レントゲン、超音波検査、CT検査、内視鏡検査、人工心肺装置などを有する。

内装もきれいであり、大型の動物病院。また、手術室へも案内して頂いたが、2室有している動物病院は比較的珍しい。

また、山根動物病院の上階に倉吉動物医療センターという研究機関が併設されている。研究と臨床が同時にできる環境が整っている。

### ・所感

後ほど報告する、アミティエの活動のほかに、このような研究センターと動物病院が併設されている施設を見学して、鳥取県として、動物の保護活動に注力していると感じた。研究センターでは、IPS細胞のような万能細胞を用いて、損傷を受けた神経や細胞を正常なものに戻す、という研究に注力していた。

### ・アミティエについて

2013年9月に動物保護施設として開所。建物面積は約330平方メートル、敷地面積は約16000平方メートル。ドックランを併設しており、一日二回、收容されている動物はこのドックランでしつけや運動を行っている。

私が見学に伺った際には、8頭の犬、2匹の猫が收容されていた。

アミティエでは、主に鳥取県全体、福島（被災犬、猫）から受け入れており、受け入れ後は、里親が見つかるまで、終生この施設で過ごす。

過去一年で、46匹の犬、猫が里親に引き取られている。

この保護施設の最大の特徴として、里親に出された最初の一か月は体験機関と位置付けている。もしその期間に、合わないと里親が感じれば引き取りはなされない。一か月体験期間をすごしたのち、講習会への参加を義務付けている。里親が講習会を受講している間、その里親が引き取りを行ったペットに対して、獣医師の検査が行われる。獣医師の検査に異常がなければ、正式な譲渡が成立する。

#### ・所感

ドックランが併設されている保護施設は、全国的に見ても唯一であり、収容されている、犬や猫を健康な状態に保つだけではなく、譲渡会などのイベントも行いやすい環境であると感じた。また、福島県から被災動物も受け入れており、自然災害の多い日本の特性に合った運営を行っている。

この施設の問題点としては、やはり建物があまり大きくないため、受け入れ数が限られてしまう。このような状況もあり、施設としてはイベントなどを積極的に行い、譲渡率を高める取り組みに注力している。

アミティエを訪問して、最も感じたことは、もちろんこのような施設が増えれば増えるほど殺処分は減少するであろうが、ゼロにはできないということである。アミティエの周辺には、全く使用されていない私有の農地が広がっており、その農地を利用してアミティエを拡充する方針を立てているが、農地転用の問題で、行政からNOと言われている現状がある。また、仮に行政が動いたとしても、タイムラグが大きいため、本来救えたはずの命を救えない可能性も高い。この農地転用の問題は、鳥取のみならず、おそらく全国的な問題であると推察するので、NPOや財団法人、さらに言えば行政や政府が殺処分問題を本質的に解決することはできないと感じた。また、アミティエのような保護施設は、大部分を寄付で運営している。米国や欧州のように寄付文化が根付いている国では、寄付による運営は持続可能であるが、そうでない日本においては疑問が残る。

この調査を行い、殺処分問題を行政やNPO法人、財団法人が本質的に解決することはほぼ不可能に近いと感じた。

人と動物の会の所長である山根所長は、民間企業がCSRとして殺処分問題や動物保護活動を行わなければダメだ、と仰っている。しかし私は、CSRでもまだ不十分であると考え。民間企業がビジネスとしてこの問題に携わらない限り、本質的な解決はないと感じる。

しかし、私は殺処分ゼロに向けた政策提言を行うことを本研究のゴールとしている。そこで私は、欧州の犬税に着目し、日本における導入効果を測定する。税のように強制的に徴収し、それを保護活動に充てることが唯一の方策であると私は考えている。